

## 第4学年国語科

### 1 単元名 熟語の意味

### 2 単元目標

訓や漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えるとともに、これまでに学習した漢字を正しく読んだり書いたりする。

### 3 本時の学習

#### (1) 目標

漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えることができる。

#### (2) 展開

学習活動	主な指導・支援	評価規準（評価方法）	
1 前時の内容を振り返り、本時のめあてを確認する。			
漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えよう。			
2 既習事項を使い、熟語の組み立てをプログラミングする。 「救助」「高低」「前進」「消毒」	○ 訓を手がかりに熟語の意味を考えることで、どのようなプログラミングを行うかの見通しを持たせる。	【言】 いろいろな組み合わせによって熟語ができていることを理解し、漢字の組み合わせを手がかりにして、熟語の意味を考えている。(ノート) (タブレット)	
3 つくったプログラミングを発表する。	○ プログラムを説明したり、比較したりすることで、訓を手がかりとした熟語の組み立て方の理解を定着させる		
4 漢字の組み合わせによって熟語が作られることを知る。	○ 熟語には、「似た意味」「反対の意味」「上の漢字が、下の漢字を修飾する」「『一を』『一に』に当たる意味の漢字が下に来る」などの組み合わせでできたものがあることを知らせる。		
5 漢字の組み合わせを手がかりに、熟語の意味を考える。 (明暗, 白紙, 岩石, 消火, 着陸, 軽重, 取得, 右折)	○ 熟語の意味を考えさせる手がかりとして、国語辞典と漢字辞典を活用させる。 ○ 班で話し合いながら意味を考えさせることで、学習内容を定着させる。		【関】 必要に応じて国語辞典や漢字辞典を使っている。(観察)
6 本時のまとめを行う。	○ 学習した内容を生かして、熟語の意味を考えようとする意欲を持たせる。		

#### (3) 評価する状況と具体的な支援

【関】	「十分満足できる」と判断される状況	国語辞典や漢字辞典を活用し、進んで熟語の意味
-----	-------------------	------------------------

		を調べることができている。(観察)
	「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	班活動を取り入れ、友達と意見を共有し、協力して活動を行える場を用意する。
【言】	「十分満足できる」と判断される状況	訓を手がかりに熟語が作られることを理解し、ビケットを活用して自分のプログラムを説明することができる。(観察、タブレット)
	「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な支援	熟語の組み立て方を思い出すことができるよう、前時の活動を振り返る。

#### 4 授業について

本単元では、訓や漢字の組み立てを手がかりにし、熟語の意味を考える過程で、二字以上の漢字を組み合わせて熟語をプログラミングする活動を取り入れる。「救助」「高低」「前進」「消毒」の熟語を2つの訓読みの言葉から組み立てるプログラムをつくることで、前時の学習内容を動作的に捉えることができるのではないかと考えた。

また、プログラミングした熟語を本時で扱うことにより、本時の導入を円滑に進めることができる。熟語がどのようにしてできているのかを考えさせるために、プログラミングを位置づけることが効果的ではないかと考える。

単元の設定時間数の中で、目標を達成するためのツールとして効果的な場面で取り扱うことに意義があると考え、プログラミングをする時間を短く設定した。



#### 5 授業研究会

徳島県総合教育センターの鶴本先生・森岡先生を講師に招き、授業研究会を行った。参観者から意見や感想を元にICTを活用する際の留意点やプログラミング学習についての成果や課題を出し合い、最後に講師先生からのご助言・ご指導をいただいた。



#### 6 成果と課題

##### (1) 成果

- ① 視覚的に操作できることで、熟語の組み合わせのイメージがつかみやすくなる。
- ② タブレットを使うことで、書くことに抵抗のある児童も意欲的に参加できた。また、作業時間を短く設定したため、時間内に学習を終えることができていた。

##### (2) 課題

- ① どの場面でプログラミングを取り入れればよいかは今後も試行錯誤しながら、より効果のある場面での活用を模索していか



ないといけない。まずは、プログラミングを取り入れてやってみる必要がある。

- ② 今回の授業では、辞典・ノート・ワークシート・タブレットと細かな作業も多く、流れについて行けていない児童も多数いたため、タブレットを使う場面を想定してできるだけ教材・教具は簡素化しつつ効果があるように工夫改善する必要がある。
- ③ 前時の復習場面以外にも効果のある場面がある。できるだけ教師が説明せずに、児童同士が対話しながら互いのプログラムを説明しながら学習課題を解決していく構成も必要である。